

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第42回 2021年11月)



怒涛の連載もいよいよ最終回。食いしん防の小学生時代、運動会の騎馬戦で無敵のN戦法に挑むことになった赤組。決戦の行方は……？

さわやかな秋晴れの下、小学5・6年生男子による騎馬戦は、午前中最後の種目として開始された。かたずをのんで見守る数百人の保護者や下級生たちの前、総勢180名の戦士が、グラウンドの両端からにらみ合った。

まずは、大将の鉢巻きを取った方が勝ちとなる団体戦。総指揮をとるN先生のホイッスルを合図に、白組18騎は即座にN戦法の防御陣形に変化した。対する赤組は、横一線に並んだままたずんでいる。

これまでなら、1、2騎ずつパラパラと攻撃をしかけて返り討ちに遭い、戦力が細ったところで一気につぶされていた。俗に言う戦力の逐次投入で、悪い戦い方の見本である。ところがその時は違った。我ら赤組は、大将の号令を合図に5年生9騎が同時に突っ込んだのである。

敵方の防御陣形はたちまち大混乱に陥った。それを見た我が組6年生は、味方大将の護衛に1騎のみを残して全騎が突撃した。狙いは敵の大将。あっという間に大将が屠られ、無敵を誇ったN戦法の白組は、わずか2分たらずで陥落した。信じられないものを目にした観客の間にとよめきが走る。N先生も呆然としていた。



第2ラウンドは1対1の勝ち抜き戦。ショックから立ち直った白組は、ここでリベンジして引き分けに持ち込もうと、新たな闘志を燃やして向かってきた。1対1なら負けるわけがない、という自信に満ちて。しかしここでも、赤組の秘策が牙を剥いた。

スピードに勝る赤組は、走り回って白組を翻弄した。運動が苦手な子を馬に回した白組は、このスピードについてこれない。隙を見て我々は真横から敵にくらいつく。そのとき我が馬の前足は、相手馬の前足と後足の間に体をねじ込むのだ。一方馬上では、騎手同士の戦いが繰り広げられている。戦闘力で劣る赤組の騎手は、練習通り敵の両手をつかんで、思い切り後ろにのけ反る。敵騎手は何とか鉢巻きを取ろうと、前（実際は真横）に身を乗り出す。

ここで相手馬に打ち込んだ楔が効いてくる。前足の動きに後足がついてこれないため、白組の馬は崩壊してしまうのだ。騎手が落馬すれば負けである。こうして我々は、相手の鉢巻きを取ることなく勝利を重ねていった。勝率はほぼ2倍近く。最後に残った赤組の大將は善戦して3騎の挑戦を退けたが、最後は疲れ果てて我々の軍門に下った。

完勝した我々は歓喜の雄たけびを上げた。この時の経験は、一生の宝物となった。これで得た自信が、その後の食いしん防を支えたと言っても過言ではない。

今振り返って思うのは、赤組を担当した S 先生の素晴らしさだ。「N 戦法に勝つ」という目標だけを与え、あとは生徒の自主性に任せ切ったやり方こそ、真の教育だったのではないか。

運動会の季節になるたびに、そのことを思う食いしん防なのであった。

TOPICS

☆北清水町が防災訓練！

10月17日、北清水町自治会の防災訓練が行われた。北風が強い寒い日であったにもかかわらず、車椅子のおばあさんを含めた沢山の住民さんの参加があった。ペール缶の暖房器具が用意され、それに薪（非常時に使用するため保管されていた）をくべて暖を取れるようにするなど、きめ細かい対応がなされていた。



地震による避難訓練を兼ねて1次集合場所になっている広場に集まった後、農業倉庫内で、当コーナーでもおなじみ日赤奉仕団防災教育指導者の中村準一氏による防災講演が行われた。会場からあふれんばかりの参加者に、追加のパイプ椅子が並べられるほど。皆さんの熱気にすごいなあと感じた。

大人が講演を聴いている間、子どもたちは防災トレジャーハントに参加！ 町内にある消火栓ボックスを探し、その中に貼り付けた防災クイズを解いていくと、最後には素晴らしい宝物が！ 楽しみながら防災の知識が得られる企画だ。

参加した住民からは、「消火栓の使い方を訓練しなければならないな」などの積極的な意見も出た。防災意識の向上に十分な訓練であったと感じた。また、今回の事業は、女性の役員を中心に企画されたことにも感動した。男性ばかりの防災訓練よりにぎやかなコミュニケーションが取れていたように思えた。

湖東地区防災ネットワーク（こと防）第三小学校ブロックに所属する防災推進員も多数見学され、「参考になる」との声が上がっていた。

☆湖東中学校で防災キャンプ！

10月29～30日にかけて、湖東中学校で「ことう防災キャンプ」が行われた。



まず、6時限目に3年生全員が、防災危機管理課の岡田達樹氏から、「東近江市で起こりうる災害と、それへの対応について」の講演を受けた。災害現場の動画や写真も交えた資料映像に、全員が真剣な表情で見入っていた。

いったん帰宅した後、参加希望者 35 名が再登校。大地震で中学校が避難所に

なったという想定のもと、避難所設営体験を行なった。市から提供された段ボール間仕切りを運んで組み立て、毛布で寝床を作る。それから缶入りクラッカーやアルファ米（湯を注いで温かいご飯ができる）の災害食を経験する夕食。コロナ対策で黙食だったが、「なかなか美味しい」と好評だった。

お腹がふくれた後は、1日目のメインイベント「暗闇体験ウォークラリー」！地震後の停電を模して電灯を消した校舎内を、懐中電灯やスマホの明かりを頼りに移動。チームで4つのチェックポイントを回って、防災クイズを解いていく。真っ暗な中を小さな明かりを頼りに移動するのは、なかなか怖い～。チェックポイントに独りで待っている食いしん防たちも怖い～～ 答え合わせでは、全問正解のチームも。すばらしい！

その後は、自分たちで作った寝床で就寝……したはずだが夜通し大騒ぎする音が聞こえてきた、という報告もあった。真偽のほどは不明である。



2日目、腫れぼったい目で起きてきた参加者は、いくつかの班に分かれて朝食作り。外のガチャコンポンプで水を汲んできたり、ハイゼックス炊飯袋を使ってご飯を炊いたり、寝床を片づけたりと大忙し。まるで一晩中起きていたかのような旺盛な食欲で、朝食をたிரらげていた。

食後には、「防災クロスロード」というカードゲームを、5人ずつのグループに分かれて行なった。これは、災害現場で実際に起こった“究極の選択”を題材に、もし自分ならどうするかを考えるもの。状況や立場によって“正解”は一様ではないことを模擬体験できるゲームだ。

昼前には1泊2日のプログラムを無事に終えて解散した。参加者からは、「活動を通して、災害時における対応をしっかりと理解できた。共同生活の大変さも体験できた」、「真っ暗なのは、恐かった。この体験を活かしていきたい」、「ハイゼックス炊飯袋のご飯は美味しく、完食しました」などの感想が寄せられた。みんな言われなくても協力し合って行動していたことに、食いしん防も感動した！

今後の活動予定

11月4日 こと防支所ブロック会議
その後も各ブロックが続々と始動



※ 出前講座の申し込み受け付けます！

勝手にQ&Aコーナー

Q：新規感染者数が減ってきたとはいえ、まだコロナのことは心配です。そんな中で防災訓練や防災キャンプを行うのに、何か工夫をされてるのですか？

A：もちろん参加者の体調チェックやマスク着用は欠かせないし、消毒や3密回避も引き続き行っています。北清水町では密を避けるため講演とトレジャーハントを別々にやり、湖東中でも活動場所の分散や、仕切りの活用などを行いました。

Q：たかが小学生の思い出を3回も引っ張って書くとは。絶対にネタ切れですよ？

A：たかがって言うなあ！ 食いしん防にとっては大切な思い出なんだよう……。ネタ切れかどうかは、今後を見ればわかります。

楽しい質問、お待ちしております！

(文責：こじまっちょ)

